

死亡リスク高い末梢動脈疾患

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 135 》

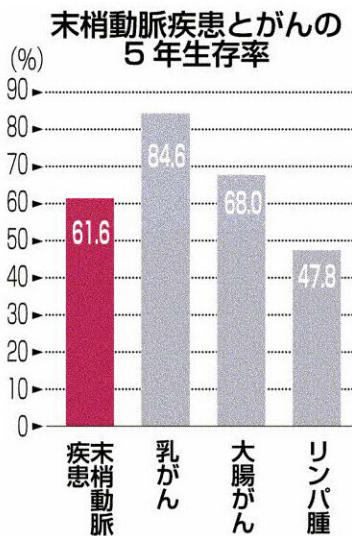
歩行時にお尻やふくらはぎが痛む間欠性跛行が特徴の末梢動脈疾患。閉塞性動脈硬化症ともいわれ、動脈硬化によって骨盤内や脚の血管が狭くなったり、詰まったりして血流障害を起こす。県立中央病院循環器内科の牧野有高医師は「末梢動脈疾患は脚だけでなく、全身の動脈硬化のリスクがある」と注意を呼び掛ける。無症状でもABI（足関節上腕血圧比）が低い場合は治療が必要としている。

「末梢動脈疾患は大腸がんより予後が悪い」とされる。理由は、全身の動脈硬化によって脳卒中や狭心症、心筋梗塞を起こしやすいからだ。末梢動脈疾患の患者の5年生存率は60%程度で、乳がん（84



循環器内科
牧野有高医師

早期検査で心筋梗塞防ぐ



(厚生労働省 2004 年度報告書などを基に作成)

・6%)や大腸がん(68.0%)より低くなっている。ABIは腕と脚の血圧の比で、脚の血流低下の程度を確認できる。牧野医師は「ABIが0.9以下の場合、症状がなくても心筋梗塞や脳卒中、死亡のリスクが、症状がある人と同じくらいある」として全身の動脈硬化に対する治療を勧める。

治療は①禁煙②悪玉コレステロールの管理(LDLコレステロール100未満にする)③糖尿病の管理(ヘモグロビンA1c7.0未満にする)④血圧の管理(収縮期140、拡張期90未満にする)⑤運動療法⑥抗血小板薬投与。それでも改善しない場合は造影CT、MRI(磁気共

鳴画像装置)で血管の詰まっている場所を確認し、血管内治療(カテーテルで血管をバルーンやステントで拡張する治療)や、バイパス手術(主に自分の静脈を使って血管をつなげる治療)を検討する。

「末梢動脈疾患の患者さんの約30%に冠動脈疾患を合併しているといわれる。脚の症状のために運動ができず、胸痛などの症状が出にくく発見が遅れることもある」。県立中央病院はABI検査を年間約500件実施。早期発見により脳卒中や心筋梗塞を未然に防ぎたい考えだ。

牧野医師は「末梢動脈疾患は全身の動脈硬化を知らせるサイン。症状に気付いたらすぐに受診してほしい」と話している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します